

# 公益財団法人 檜山奨学財団

## 団体情報

代表者 (理事長) 亀岡 エリ子

住 所 〒103-8239 東京都中央区日本橋 3-10-5 オンワードパークビルディング

WEB サイト URL [www.kashiyama-sf.com](http://www.kashiyama-sf.com)

未来を託すに足る優秀な人材を育成するために奨学金援助を行う

**新** 年を迎え助成財団関係者の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は思いもよらぬ新型コロナウイルスの感染拡大で、今までの社会常識が一変する状況となりました。各財団にお話を伺っても苦慮されておられましたが、私どもの財団もすべての対面での会合を中止せざるを得ませんでした。

奨学財団として財団と奨学生、また奨学生同士の繋がりと交流を掲げて長年活動してまいりましたので、どうしたものかと頭を抱えこみました。大学生が新学期にキャンパスへ一歩も立ち入れないという非常事態でしたが、それでも何とか奨学生の新規採用もでき、皆とオンラインでの面談も進める事ができほっとしている次第です。これからは、大学生の意識も大きく変わるとでしょうし、対面の交流から新しい形の「集まり」を模索していかなくてはと考えております。

私ども公益財団法人檜山奨学財団は1977年から日本全国41の大学と小諸市教育委員会推薦の大学生と、七つの大学院に

在籍の外国人留学生への奨学金支援と交流を目的として事業を運営しております。また2006年からは「檜山純三賞」として現代アジアの図書の表彰を行っております。



「助成財団のこころ」というお題をいただいておりますが、私どもの財団創設者の財団設立の思いについて紹介させていただきたいと思います。

公益財団法人檜山奨学財団の創設者檜山純三は1901年小諸で生まれました。その人生は今回のコロナではありませんが自分の思い描いていた未来が突然周りの状況で一変したにもかかわらず、逆境にめげずに努力と前向きなチャレンジ精神で前進 (onward) を続けたものでした。

兄が東京の高校、大学と進学したので自分もそうなるのだろうと思っていたところ、何の前触れもなく小学校の卒業式の日には汽車に乗せられて同じ東京でも三越で働く事になりました。三越の社員寮に学生姿で訪れる兄に、「負けるものか」と眠い目をこすって消灯後独学で勉強に励みました。

そうこうするうちに努力とともにその誠実な人柄が認められ、独立して商売を始めました。自分の商店を始めてからも、世の中の状況を勉強する事を怠らずに独自の路線を切りひらいていき、徐々に商売の規模も大きくなっていきました。そこで勃発した第二次世界大戦が激しくなっていく、順調だった商売をやめなくてはならなくなりました。

終戦を迎え、榎山純三はここで本領発揮です。「我、雄飛の時来る」とばかりそれまで悪かろう安かろうだった「つるし」紳士既製服を、アメリカからホフマンプレス機の輸入という大勝負に出て榎山の背広はいいという評判につなげオンワード榎山を一部上場会社に育てました。

徒手空拳で商売では成功しましたが、「大学へ行って勉強したかった」という思いは生涯強く、自分の株式のほとんどすべてを当時の文科省に寄付して若い優秀な人材の育成の一助になるようにと大学生への給付型奨学金の財団を設立しました。

今年度の新規奨学生大学生は夢見ていた大学生活とは全く違うスタートを余儀なくされました。

しかしながらオンライン授業という新しい授業を通して、模索しながら次第にスキルも向上して時間の有効利用など利点も見出している様子です。

新型コロナウイルスがきっかけで大きな時代の変換点を迎えている今、榎山奨学生には「ここはこれからの新しい社会に飛躍するチャンス」と考えて創設者榎山純三の挑戦する心を受け継いで頑張してほしいと思っています。



財団も創設者のスピリットを忘れずに今までと同じでなくても、微力ながらより一層社会貢献に役立ち大学生に寄りそう事ができる奨学金事業と表彰事業を今後も続けていきたいと思っています。

(2021.01)